

田中裕規 議員レポート

2018年 1月号 No.3

- 新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。
さて、私は2年目の年を迎え、新たな気持ちで三原市政の発展に取り組んで参る所存ですので、宜しく願い申し上げます。 今回の議員レポートは、12月5日～18日で開催された平成29年第5回三原市議会定例会を中心にした状況報告と活動状況をみなさまにご報告致します。

1. 12月定例会概要

提出議案	19件	可決
報告案件	1件	
意見書提出	1件	可決

2. 12月定例会議一般質問で問う

12月の定例会でも、今後の三原市の在り方を問う一般質問を新人のトップバッターとして行いました。今回は、3件の質問を行いました。いずれも三原市は真剣に考えていかなければならない事案であると考えています。

以下に、一般質問の概要を示します。

(1) 三原市のシティプロモーション組織の編成と活動について

- ①シティプロモーション（自治体の営業活動）についての、三原市の考え方はどうか。
- ②前回の答弁で、「誰に対して」、「三原市の何を売り込むのか」を明確にするとの答弁があったが、検討の進捗状況はどうか。
- ③縦割り行政の弊害克服として組織横断的な発想や、若手の発想を取り入れた活動により、新たな三原の魅力を向上させる活動が必要と考えるがどうか。

※シティプロモーションの必要性を行政も認識し、まずは観光分野の取り組みをベースに展開を検討するとの回答を得ました。また、組織横断的に活動できる柔軟な組織体制を編成することは重要であるとの見解であり、来年度より営業活動組織が編成されることを強く要望しました。

(2) 空き公共施設の活用について

- ①不要になった空き公共施設の有効活用を図るための空き公共施設等利活用の民間促進支援制度はあるのか。
- ②今後、空き公共施設の維持管理費や解体費用による財政圧迫を極力抑えるため、有効活用を積極的に考えていく必要があるが、空き公共施設活用の具体策はどのようになっているのか。
- ③特に中心市街地に位置する移転予定の現中央図書館は、移転後、放置状態にならぬよう早急に活用方法を明確にし、地域住民への説明が必要である。スケジュールはどのようになっているのか。

※現在、公共施設の再配置を進めているが、空き公共施設等利活用促進のための活用支援制度はないので、今後、他都市の事例や運用状況を踏まえ、民間活用ニーズ等の把握やさまざまな支援の可能性について検討を進めるとの見解でした。
また、現中央図書館移転後の円一官庁街エリア全体の再編案については、移転前までには構想が作られる予定です。



三原市議会議員
田中ひろき

◇ プロフィール
1959年8月9日生
東京農工大学工学部
大学院卒
元帝人㈱社員
家族構成
妻と息子3人

◇ 連絡先
三原市港町三丁目
16番13号
携帯 090-7137-0440
FAX 0848-64-8911

(3) 待機児童の状況と保育所について

- ①現在の三原市の待機児童数と未入所児童数はどのようになっているのか。また、それに対し、どう対応しようとしているのか。
- ②現在、建築後40年が過ぎ耐用年数が近づいている保育所施設が幾つかあるが、財政が苦しくなる中で、これら施設の今後の対応をどうするのか。また、三原市の保育所運営を長期的にどのようにしていく考えなのか。

※国定義の待機児童数はゼロですが、未入所児童数は11月1日現在で81人もあり、今後の幼児教育無償化によりさらに増えてくることが予想されます。三原市としても人口減少に歯止めをかけるためには、子育て支援の充実が必要であり、来年度中に、第3期の幼稚園・保育所等適正配置実施計画が作成される予定です。まずは、三原駅高架下に小規模保育所が4月開所予定で決まりました。今後、財政負担を軽減できる民設民営による認定こども園や保育所を増やして行けるようにしたいと思います。

3. トピックス

※ 駅前東館跡地活用事業について

平成29年7月31日付けで公募型プロポーザル方式により募集を行った「三原市駅前東館跡地活用事業」について、2グループから応募があり、学識経験者等で構成する提案審査会において提案内容の審査が行われ、最優秀提案が選定されました。

結果、①3階建図書館棟、②10階建ホテル棟、③1階がスーパーの5階6層駐車場棟、④広場及び各棟を区切る2つのストリートから構成される分棟形式の複合施設になります。事業契約の締結が平成30年2月に行われ、公共施設の竣工・引渡しが平成32年6月頃になる予定です。大いに期待してゆきたいと思います。



4. 活動報告 & お知らせ

(1) 全国の島々が集まる祭典「アイランダー2017」に佐木島・小佐木島が出展



全国の島が一体となって島の持つ自然・歴史・文化・生活などのすばらしさをアピールする「離島」と「都市」との交流事業が池袋のサンシャインシティで11月18・19日に開催されました。佐木島・小佐木島でブース出展を行い、「新幹線の駅から一番近い癒しの島」として都会の方々に紹介しました。これからも都会からの来島者を増やすための活動をしていきます。



(2) 市民提案型協働事業として佐木島八十八カ所お大師さん巡りが再認定

三原市の市民提案型協働事業として、本年度よりキャンペーン活動を行っている「いつでも一日で巡れる佐木島八十八カ所お大師さん巡り」の次年度活動が、昨年12月に再認定されました。地区に点在するお大師さんを活用して、オリエンテーリングコースの設置などをさらに考えています。みなさんも一度お大師さん探しに佐木島にお越しください。

(主催：さぎしまを愛するボランティアガイド)

(3) 天守台跡入口の改善要望

築城450年事業で多くの方が三原を訪れましたが、三原城天守台跡入口が分からないとの意見を多数耳にしました。全国でも珍しい本丸の中に作った三原駅は、大いにPRすべきことですが、受け手側の整備が整っていません。これはJRと行政が一緒になって取り組む課題ですが、引き続き改善を要望していきます。



5. あとがき

10月から11月に掛けて研修会などで数多くの勉強をしてきました。わが国は人口減少社会に突入し、今後、社会経済や地域社会の状況は大きく変容するものと見込まれます。これに伴って、地方自治体の置かれる経営環境は激変することが予想され、現状のままの組織や行政サービスでは十分に対応できないことが考えられます。そうした中、国は地方分権改革を推進し、地域が自らの発想と創意工夫により課題解決を図ることを推し進めてきています。そのことに気付き既に動き出している自治体と、そうでない自治体とで差が見え始めています。三原市もこれまで通りのやり方から抜け出し、新たな発想を取り入れた活動が必要ではないでしょうか。今年は、変化が見え始める年にしたいものです。